

## 音楽の散歩道 其の2

— 素晴らしきかなLP, ゆうみん50周年 —

キラメキテラス ヘルスケアホスピタル | 栗 博志・高田 昌実・田島 紘己・上村 章  
加治木温泉病院 | 夏越 祥次 | 東区・荒田支部 | 栗 隆志  
大海・大海宮崎クリニック | 大西 浩之・海江田 寛・牧野 智礼

### はじめに

It's no use crying over the lost LPs.

私共の子供の頃は、SPレコードは、ほぼ廃れ、音楽はEPやソノシートで聴かれていた。

中高生時代から家庭用ステレオ装置、LPが普及してきたが、LPは簡単に買えるものではなく、ソニーのトランジスター・ラジオのダイヤルを回しながら、電波状況の悪い「真夜中のリクエストコーナー」や「オールナイト・ニッポン」などを、一晩中聴いていた。土居まさる、落合恵子（レモンちゃん）、亀渕昭信らパーソナリティの語り口が懐かしい。

大学生になると、LPが身近になったが、普段は「週刊FM」を片手に、NHK・FMを楽しんでいた。カセットによるダビングが盛んな時期もあった。

LPからCD移行時のレコード会社の巧妙なCD販売戦略は忘れられない。CDにも長所が多々ある事は、言うまでもないが。

物事には、全て一長一短があり、全てが優れていることなど有り得ない。

そのCDも近年、パソコン等によるダウンロードでの、音楽再生・録音に取って代わられているようである。

パッケージ・メディアから無線系メディアに音源が移行し、利便性が飛躍的に向上したが、「物」としての音源は消滅した。

LPでは、その製作に係わる時間、労力、費用、資源、人材が膨大であるかわりに、趣味の世界の音源と「物」としての存在感は最高である。

ジャケットは、正にレコードの顔。

それ自体で鑑賞の対象となり、音楽の内容・感動を伝えてくれるし、詳細な解説書、写真、ポートレートなどは、演奏者と鑑賞者を、より深く結びつけてくれる。

レコード袋から、レコードを取り出し、ターンテーブルに慎重に置き、盤面に針をそおつと降す時の緊張感も、また楽しい。

年月を経、思い出の詰った古いLPは、一層大切なもので、一度手元を離れば、二度と手元に戻らない。（図1）

viva LP !



図1 小さな1本の針の振動から  
“中央フリー・ウェイ……夜空に続く”  
エジソンの世紀の大、大、大発明



#### 〔4〕 ゆうみん、呉田軽穂

祝：デビュー 50 周年

思い出：ゆうみんからの贈りもの

グレタ・ガルボ (1905-90 年, スウェーデン) は、24 年にハリウッドの MGM に招かれた。彼女は、サイレント映画時代から、トーキー (30 年以後) 初期のハリウッドを代表する美人大女優で、41 年にわずか 35 歳で引退した。(図 2)

ゆうみんが、この伝説的大スターのどこに興味を持ったのかは知らないが、芸能人として、華やかなガルボに魅力を感じただろう事は、彼女の舞台から想像できる。

音楽家ではないガルボのサイレント時代 (29 年) の音楽の LP (The Single Standard, The Kiss) の、この古いジャケットを手に取って眺めるだけでも楽しい。



図 2 伝説のハリウッド女優グレタ・ガルボ 私からわずかに視線をそらした眼な差しに 大女優の才能を再確認

#### 『Yuming からの 2 つの贈り物 autographs and music』 (図 3)

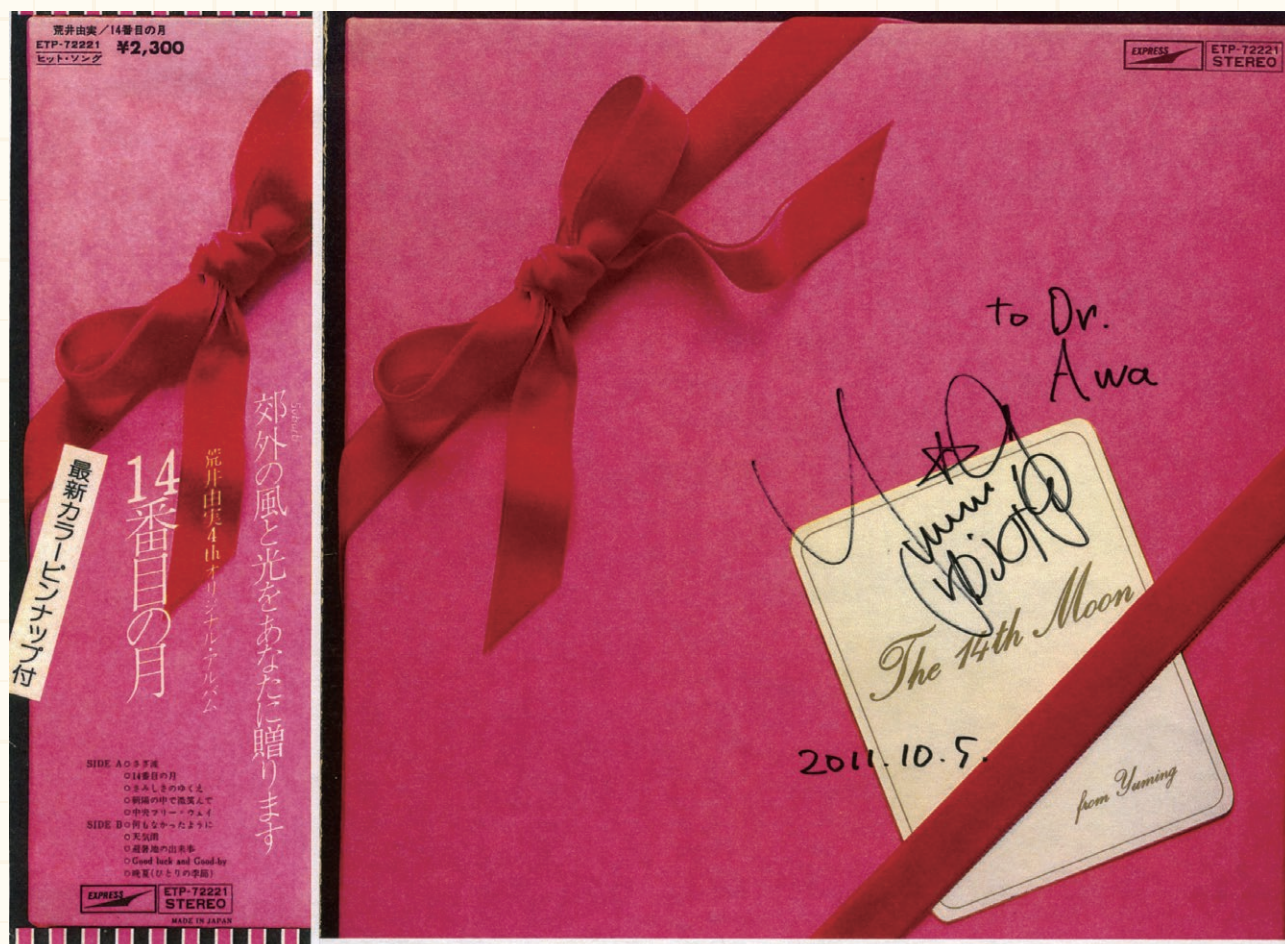


図 3 ゆうみんからの贈りもの autograph&music





図4 ファンには嬉しい大型ポートレート  
LPならではのプレゼント

会ったことは無いけれど  
話したこともないけれど  
ピンクの wrapping に赤 ribbon  
予想通りの wonderful taste  
Yuming からの presents  
Autographs on her album  
cheers ! Yuming, グレイス&メール

レコード袋に 10 の歌詞  
どの詩も瑞々しい感性に満ちあふれ  
新鮮な感情表現 全てが avant-garde  
Breeze, brightness, twilight, free  
way and night-time sky  
The break of dawn and the setting sun  
The late summer and the nostalgic fall  
The past, the present and the future  
Love and memory  
All in the lyrics (図1上)

レコード盤に針を落す gently  
細い溝を針が trace, fine vibration  
スピーカーから refreshing sound  
狭い空間を包み込む tenderly  
Suprime gift, Yuming's music world  
新しい扉を開け放ち  
introduces us to fantastic pop scene  
おっと もう一つの忘れもの  
大きい Yuming's portrait  
2011.10.5 at Grays  
あれから早くも 12 年 暦も丁度一巡り  
思い出つまった贈りもの (図4)

2022 年, Yuming はシンガー・ソングライターとして初めての文化功労者となった。  
2023 年は, デビュー 50 周年。  
増々 active に歌手生活を送って下さい。  
For fascinating singer and songwriter,  
Yuming : Congratulations and Cheers !

## 〔5〕 エラ・フィッツジェランド

(1917-99)

魂の叫び、そして祈り

Jazz : Something spirited, cheerful but lonely, melancholy, nostalgic, lonesome, spiritual, calm and Prayers.

ジャズの女性 vocalists には、“偉大”と形容されるのが、ぴったりの人が何人かいる。サラ・ヴォーン、ビリー・ホリデイ、エラ・フィッツジェラルド……。

彼女達の歌唱を至高の高みに押し上げているのは、その心の奥底、魂の中に、過去の永く辛い、そして厳しい苦難の歴史を、宿しているからかもしれない。

彼女達の生まれ育った時代ですら、まだ、そのような不条理な歴史の一部であった。

歌は心の平穏、安らぎをもたらす最も身近で、誰もが手にする事ができる手段だったに違いない。

洋の東西を問わず、子守歌こそ最大の慰め。真価は子守歌に発揮される。

“Summertime,  
And the livin’ is easy  
Fish are jumpin’  
And the cotton is high  
Oh your daddy’s rich  
and your mama’s good lookin’  
So hush little baby,  
Don’t you cry”

彼女達の歌唱の絶妙な phrasing, articulation, sonorous voices.

単なる技巧ではない。彼女達の魂が、そのように歌わせているように聴こえる。

歌と共に、時は静かに流れていき、魂の世界にいざなわれる。

図5は、現代絵画に関心のある人には御馴染みの、フランスの画家ベルナール・ビュッフェ (1928-99) の作品である。

硬質の鋭い直線を多用した輪郭線と、それ自体が絵の一部となっている装飾風の独特のサインの彼の絵画は、一度眼にしたら決して忘れる事のできない、強力なインパクトを与える者に与える。

彼は疑いもなく、新たな絵画の世界の創造



図5 新しい世界を表現したビュッフェ  
趣味のよいジャケット裏面

者であった。

実は、この絵は図6“ELLA FITZGERALD SINGS THE GEORGE AND IRA GERSHWIN, SONG BOOK”という有名なアルバムのジャケットの裏面である。

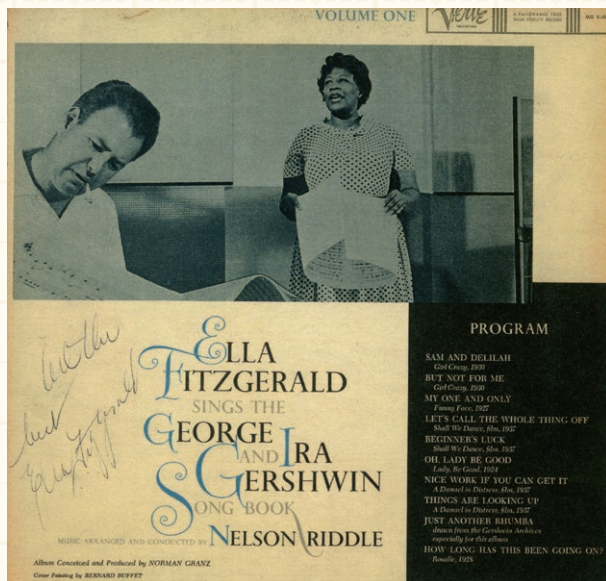


図6 「ガーシュインのソング・ブック」  
エラのサインは、彼女の教養を示唆



アルバム製作者が、レコード内容に相応しいジャケットを作成しようとした意気込みが伝わってくる。

エラも気に入ったのだろう。彼女の5つのアルバムに、ベルナルの絵を使用している。(もともと、エラが希望したのかもしれない)

ジャケットの表の面には、エラ自身の貴重なサインがある。

このサインを見る限り、その不遇な生い立ちにもかかわらず、逆境に打ち勝ち、知性と教養（現代では死語になっているかもしれない

いが）の持ち主だった事が推察される。

レコード袋からは、当時のヴァーヴ・レーベルのなつかしい演奏家のLPが並ぶ。

袋の中央に“If talent represents riches, you’re looking at a golden mine”と書かれている。(図7)

LPを金鉱山にたとえるあたり、製作者のセンスの良さをよく示している。レコード袋の右端、上から2つ目もベルナルの作品。

エラは、ガーシュインやコール・ポーターの曲などに、多くの名盤を残した。



図7 当時のレコード袋  
ベイシー、オデイ、ピーターソン、ギレスピー、ロリンズ、ゲッツ、  
バーカー、エリントン、ホリデイ、テイタム、アームストロング、マン、  
ベイカー、最もアメリカ的なアメリカの財産、正に金鉱山。



## 〔6〕エルヴィス・プレスリー

(1935-77)

Superstar

エルヴィスは、私達の世代の脳裏に生き続ける歌手である。

数ヶ月前、天文館のレコード屋さんに立ち寄った。店内を見渡すと、懐かしいLPジャケットが目に入り、つい購入した。(図8)

プレスリーは、キリスト教徒（プロテスタント）の家庭に育った。

13歳の時、テネシー州メンフィスに転居。メンフィスは、R&B、ゴスペル、カントリー&ウェスタン、ブルーグラスなどのアメリカ音楽の聖地の一つである。

1953年、18歳の時にサン・スタジオで、バラード2曲のレコードを4ドルで作ったという（バーブラ・ストライサンドは、55年、13歳の時、ニューヨークのノラ・レコーディング・スタジオで、オペレッタ2曲のレコードを作った）。

55年には、RCAビクターに籍を置く。

56年には、RCAでの第1弾シングル「ハート・ブレイク・ホテル」をリリース。これが、ビルボード7週連続1位の大ヒットとなる。

その後の彼の「Elvis the Pelvis」と呼ばれた腰を振るロックンロールの演奏法は、保守的な大人達の激しい反発を招いた。

56、57年の3度のエド・サリヴァン・ショーでは、エドがエルヴィスの好青年ぶりを紹介してくれたお陰で、エルヴィスへの批判も少なくなったという。

58～60年（23～25歳）には、アメリカの徴兵制に素直に従い、西ドイツの米軍基地で軍隊生活を送り、軍曹で満期除隊。

61年からは「He Touched Me、神の手に導かれ、邦題は3曲目からの至上の愛」など、宗教的アルバムを少なくとも3枚リリース。

エルヴィスは、また非常に多くの団体に慈善寄付を行っている。

彼の独特、特異な演奏スタイルに反し、彼は、当時の米国の良識の持ち主であった。

彼が、自宅グレイスランドで倒れているのを発見されたのは、42歳の時であった。

彼はオリジナル、ライブ・アルバムで多くの名盤を残したが、私共に

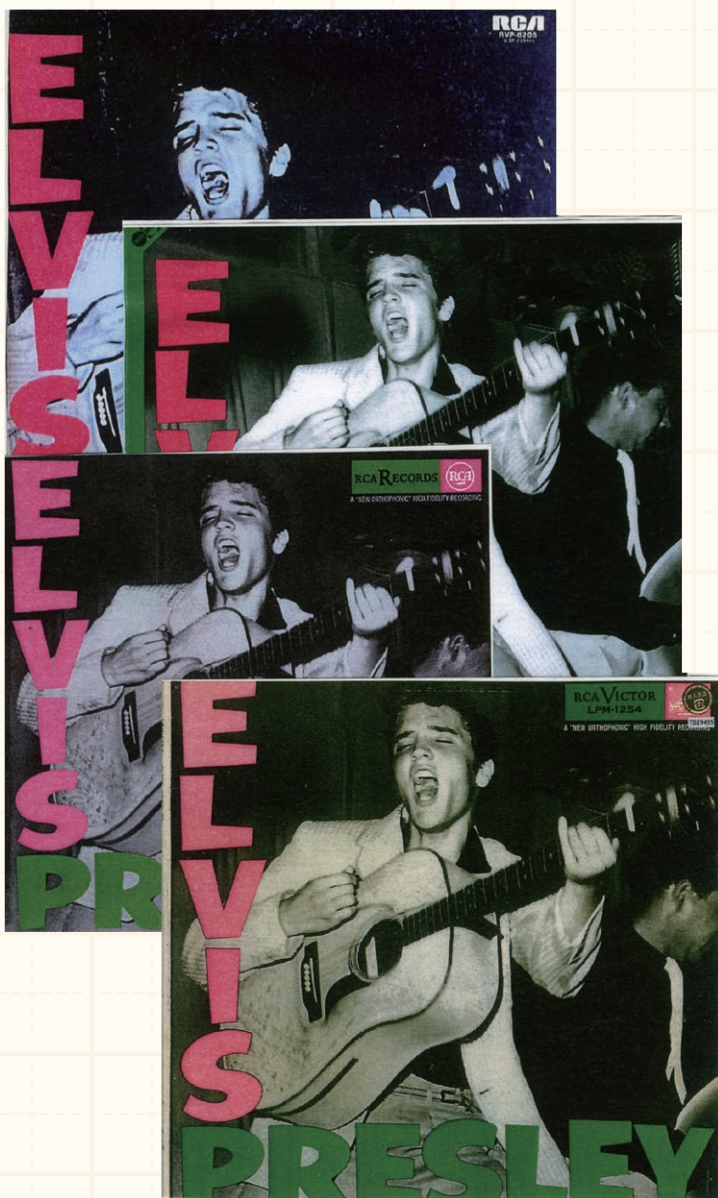


図8 1956年以後もissueを続けるLPs  
手前が初期板(右or左上隅のロゴに注意)

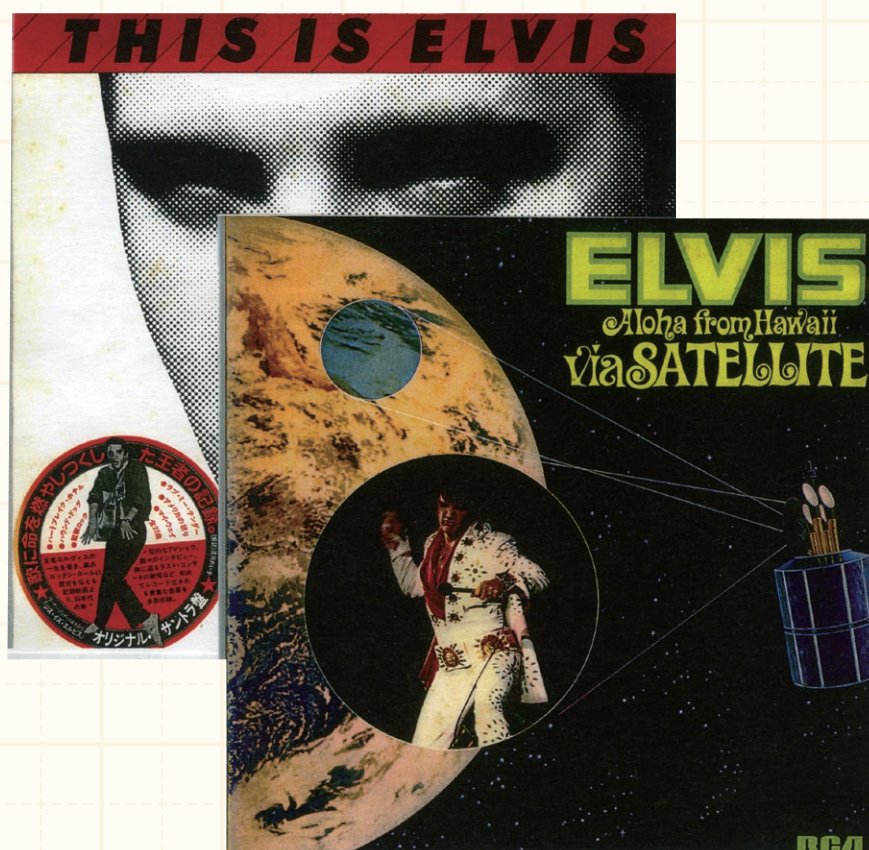


図9 「Aloha from Hawaii」と「This is Elvis」のジャケット

とって最も印象深いのは、50年前、73年のインテルサットを介した、衛星放送でのコンサートであろう。(図9)

「Elvis, Aloha from Hawaii, via Satellite」である。

ポピュラー・ピアニスト・リベラーチェ通りの派手で豪華なコスチュームでの舞台、および音楽構成の素晴らしさは、その歌唱力と共に圧倒的である。(図10)



図10 「Aloha from Hawaii」  
熱唱するエルヴィス・プレスリー

オープニングの“Also Sprach Zarathustra”は、のっけから荘厳な雰囲気醸し出し、Elvis 登場への期待感を、いやが上にも盛りあげる。

軽快なドラムスに乗って“See see rider”

We're going to try to do all the songs you want to hear. Elvis の声が、いかにも若い。

軽く、然し感情を込めて、さらりと歌い流す、Beetles ナンバー“Something”。

One of my favorites Folks call it “My way” Elvis の独壇場、Elvis の世界に引き込まれていく。

go go Johnny B Good, Blue blue blue suede shoes リズムに乗って、いつしか身体が踊り出す。

時がどんどん過ぎて行く。終りが見えてくる。楽団員の紹介、若い声の Elvis。聴衆への感謝も忘れない。

“I'll remember you” しつとりと歌いあげる。がんに苦しみ、この地、ダイヤモンド・ヘッドから身を投げ出した作曲家クイ・リーのナンバー。彼のがん基金の為のチャリティ・



ショー。

そして、ついに“An American trilogy”。  
Traditional の3曲で構成された名曲でコンサートは最高潮に達する。

見よ 彼方を見よ Dixieland, 栄光あれ  
栄光あれ Halleluja, 神よ私の試練は間もなく終る 主の信実は来たり。

聴衆の琴線を揺さぶり、深い感動を呼び起す。

腰に手を当て、バック・バンドの熱演を、じっとみつめる鋭い眼な差し。将に歴史的スーパースターの一瞬。

“Can't help falling in love” 感動と余韻が、いつまでも深く、心の中に残る。

突然のドラムスの響きが続く、現実の世界に引き戻される。響が次第に fade out。

華麗なショーは幕を閉じる。



図11 ジュディ・ガーランド以来の「スター誕生」  
エルヴィスとの共演は実現しなかった。

1974年、ラスベガスで公演中のエルヴィスの楽屋を、バーブラ・ストライサイドが訪れ「スター誕生」の共演を依頼したが、パーカー大佐に断られたと言う。

Superstar エルヴィスと、私の好きな、ハリウッド史上最高、実力 No.1vocalist バーブラの共演が、実現していたらと想像すると残念である。(1976年、クリス・クリストファーソンと共演した「スター誕生」は、それでもアカデミー、グラミー、ゴールデングローブ5部門を受賞した)(図11)

感動を伝える豪華な写真、それがLP。

CD出現以後、LPの出番は無くなったと思っていたが、どっこいLPは生きていた。LP好きの人が、世界中に沢山いるのだろう。

図8の一番手前が、ずっと以前に私が手に入れたLP。エルヴィスがRCAに入ってから初めてリリースし、大ヒットしたアルバム「ELVIS PRESLEY」の貴重な初期盤である。今回、レコード屋さんでみつけた新しいLP(CD付き)他にも、その後、LPがリリースされている事がわかり幸せである。

レコード・ジャケットはどれも似てはいるが、細部は異なる。ジャケット右(左)上のロゴマークなども、少しずつ異なる。

(つづく)